



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2019年12月16日 第949号「週刊五十嵐レポート」

## 冬至の日にやることは

論語の中に、孔子は、「自分はあと何年か経つと50歳なるが、それまでに易経を学べば、その後は大きな過ちはなくなるだろう」と言っている。私は50歳過ぎてから易経の本を読んで学び始めた。しかし難解で挫折した。

今年初めに竹村亜希子氏の易経講座CDを聴いてみた。すると点と点だったものがバチバチと繋がり、線となった。解り始めた。学びを再開した。

易経とは、占いの書物として発展、その後古代中国の君主が学んだ帝王学の書になった。易経を読むと、占わずして時の変化の兆しを察する洞察力、直感力を身につけることができる。時の変化を見抜くことに特化した「時と兆しの書」と言える。

易経には、世界は絶え間なく変化する(変易)、しかしそこには一定不変(不易)の法則が貫いている。その法則を理解すれば、難しいことではなく平易に対処できる(易簡)。これを易経の三義という。

「見る」と「観る」。見るは現象を見る。観るは読み取る(洞察)。易経では「観る」を重視する。

もうすぐ冬至。1年で昼が最も短く、夜が長い日。易経では、一陽来復の日。冬から春が来ること。これから日が長くなる。しかし体感ではこれから寒くなる。現象と兆しにはタイムラグがある。(ここが易経の面白さ)

冬至の日に、一からやり直す。ゆっくりと一年の大計を立てる。古代の王も閑所を閉鎖、商人・旅人も歩を休め、静かに思う日であった。孔子が理想としていた国(周王朝)時代は冬至が正月であったらしい。ゆえに元日は外で出ない。2日目から物事を始める。(書き初め等)

今年の冬至は12月22日の日曜日。多くの方はお休み。そこでその日は早めに起きて、静寂な時間を過ごし、そこで来年の大計を考えてみてはどうか。また、冬至占というものもある。100円1枚と10円5枚の計6枚で占うものがある。当たるも八卦(易経では「はっか」)、当たらずも八卦(「はっか」)。

ちょっと  
お詫言

12月5日付日経新聞に「マンション価格、18年の都内 年収の10倍超え続く」という記事。

2018年に東京都で販売されたマンションの価格は、新築、中古ともに年収の10倍を超えていることが東京カンテイの調べでわかった。

平均年収に対する倍率は新築で13.3倍、中古で10.49倍。年収は都道府県別の県民計算の1人当たりの雇用者報酬を基にしている。

内閣府のHPより、東京都の1人当たりの所得は5,348千円。新築は7,112万円。中古は5,610万円。私が20代、30代のバブル期でも年収の5~6倍程度と考えるとずいぶん高くなった。

もう一つの記事は、リクルート住まいがまとめた「東京23区の家賃相場が安い駅ランキング」。最も安かったのはJR京葉線「葛西臨海公園駅」(江戸川区)。江戸川区は1位の葛西臨海公園駅のほか、都営新宿線「篠崎駅」、「一之江駅」など5駅が20位圏内に入った。

妻の友人の「山の手」夫人たちに「なぜ江戸川区に住んでいるの?」とよく訊かれたという。住んでいる我々は居心地がいいのだが...



一口メモ  
知識

## 日々学ぶ人

人に何か言われて、腹が立つのは、  
「自分が正しい」と思っているからです。

「私は知らない」と思えば、  
「これはどうやるのでしょうか。教えてください」と訊くことができます。  
すると、みんな親切に教えてくれます。

「自分は未熟だ、知らないのだ」ということに気づいている人は、  
日々学びます。人間関係も円滑になっていきます。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

